

主体的・対話的で深い学びの授業構想 (科目「マーケティング」)

1 対象生徒

2年次の総合ビジネス科の生徒20人を対象とする。1年次に科目「ビジネス基礎」を学習し、マーケティング分野での基礎的な知識や考え方を学習している学習集団である。2年次に学校設定科目「キャリアデザイン」、7月に2日間のインターンシップを経験しており、主体的に取り組もうという生徒が大半を占める。しかし、与えられた課題に対して論理的に思考し、他者と協議して答えを導き出すことを苦手とする傾向がある。

2 単元

第5章 商品計画 第3節 商品管理③ (全15時間)

3 単元目標

商品管理や在庫管理を行うためのさまざまな方法を理解させる。

4 本時の目標

ワークシートを利用し、グループでの討論を行い、主体的に考えられる能力を育成する。また商品管理や在庫管理の手法について理解させる。そしてグループワークによる対話的で深い学びを通して、企業が抱える商品計画に関する課題を解決できることを体験させる。企業を招き、講話をしていただき、より深い学びにつなげることができるようにする。(3/15時間)

5 授業展開構想

課題の提示
<p>在庫管理の重要性を理解するため、商品回転率による標準在庫高算出、在庫比率による標準在庫高算出の方法を学習する。実在する同業の複数の企業（小売業）の商品回転率の計算をなさい。同業他社（小売業）の企業分析を行い、その理由を説明しなさい。商品回転率を上げるためには、どうすればよいかについても考えなさい。</p> <p>交差比率による商品及び店舗の分析をなさい。そして、企業人講話を聴き、実際の在庫管理について理解しよう。</p>

思考のための資料と想定される生徒の活動		
<p>【ワークシート】</p> <ul style="list-style-type: none"> 商品回転率による標準在庫高算出 在庫比率による標準在庫高算出 	<p>【ワークシート】</p> <ul style="list-style-type: none"> 商品回転率の分析方法 在庫管理の重要性について 交差比率 	<p>【ワークシート】</p> <ul style="list-style-type: none"> 企業人講話 振り返り、全体発表
<p>【想定される生徒の活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> 商品回転率による標準在庫高算出と在庫比率による標準在庫高算出との違いについて理解する。 	<p>【想定される生徒の活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> 商品回転率を上げるためには、在庫管理を適切に行う必要があることを理解する。 	<p>【想定される生徒の活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> 粗利益率を加えた交差比率を利用することで、企業分析の一部になることを理解する。

対話と思考（対話を通じた課題解決のプロセス）	
<ul style="list-style-type: none"> 4人のグループを組み、グループ討論を行う。(15分) 全体に対して、議論した内容を説明できるようにまとめる。(10分) 	【50分×3時間で実施】

学習の成果	
<ul style="list-style-type: none"> 商品回転率を理解し、適正な標準在庫数を求める方法を活用できる。 在庫管理の方法を理解し、重要性についても認識することができる。 	

新学習指導要領における育成を目指す資質・能力を評価するための視点	
①知識及び技術	<ul style="list-style-type: none"> 商品管理の方法、商品回転率の計算方法を理解している。
②思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"> 自分の思考を分かりやすく伝えることができる。 自分の考えを論理的にまとめることができる。 グループの意見をまとめることができる。
③学びに向かう力、人間性等	<ul style="list-style-type: none"> 自分の意見を積極的に発言できる。